

科目一覽

【発行日：2021/4/3】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

資格関係科目	【C6700】	生涯学習入門Ⅰ	[久井 英輔]	春学期	1
資格関係科目	【C6701】	生涯学習入門Ⅰ	[朝岡 幸彦]	春学期	2
資格関係科目	【C6702】	生涯学習入門Ⅱ	[久井 英輔]	秋学期	3
資格関係科目	【C6703】	生涯学習入門Ⅱ	[朝岡 幸彦]	秋学期	4
資格関係科目	【C6704】	図書館情報学概論Ⅰ	[原田 隆史]	春学期	5
資格関係科目	【C6705】	図書館情報学概論Ⅰ	[村上 郷子]	春学期	6
資格関係科目	【C6706】	図書館情報学概論Ⅱ	[原田 隆史]	秋学期	7
資格関係科目	【C6707】	図書館情報学概論Ⅱ	[丹 一信]	秋学期	8
資格関係科目	【C6708】	図書館情報学概論Ⅱ	[菅原 真悟]	秋学期	9
資格関係科目	【C6709】	図書館情報学概論Ⅱ	[丹 一信]	春学期	10
資格関係科目	【C6710】	図書館サービス概論	[丹 一信]	春学期	11
資格関係科目	【C6711】	情報サービス演習	[田中 順子]	年間	12
資格関係科目	【C6712】	情報サービス演習	[田中 順子]	年間	13
資格関係科目	【C6713】	情報サービス演習	[菅原 真悟]	年間	14
資格関係科目	【C6714】	図書館情報資源概論	[小黒 浩司]	春学期	15
資格関係科目	【C6715】	図書館情報資源概論	[村上 郷子]	春学期	16
資格関係科目	【C6716】	図書館情報資源概論	[村上 郷子]	春学期	17
資格関係科目	【C6717】	図書館情報資源特論	[小黒 浩司]	秋学期	18
資格関係科目	【C6718】	図書館情報資源特論	[村上 郷子]	秋学期	19
資格関係科目	【C6719】	図書館情報資源特論	[村上 郷子]	秋学期	20
資格関係科目	【C6720】	図書館演習	[坂本 旬]	年間	21
資格関係科目	【C6721】	図書館演習	[村上 郷子]	年間	22
資格関係科目	【C6722】	図書館演習	[丹 一信]	年間	23
資格関係科目	【C6723】	図書館演習	[丹 一信]	年間	24
資格関係科目	【C6724】	読書と豊かな人間性	[有吉 末充]	秋学期	25
資格関係科目	【C6725】	情報メディアの活用	[村上 郷子]	秋学期	26
資格関係科目	【C6726】	情報メディアの活用	[坂本 旬]	秋学期	27
資格関係科目	【C6727】	社会教育演習	[久井 英輔]	年間	28
資格関係科目	【C6728】	生涯学習支援論Ⅰ	[久井 英輔]	春学期	29
資格関係科目	【C6729】	生涯学習支援論Ⅰ	[朝岡 幸彦]	春学期	31
資格関係科目	【C6730】	生涯学習支援論Ⅱ	[久井 英輔]	秋学期	32
資格関係科目	【C6731】	生涯学習支援論Ⅱ	[朝岡 幸彦]	秋学期	33
資格関係科目	【C6732】	現代生活・文化と社会教育Ⅰ	[鈴木 悌遍]	春学期	34
資格関係科目	【C6733】	現代生活・文化と社会教育Ⅱ	[佐々木 美貴]	秋学期	35
資格関係科目	【C6734】	博物館概論	[金山 喜昭]	春学期	36
資格関係科目	【C6735】	博物館経営論	[金山 喜昭]	春学期	37
資格関係科目	【C6736】	博物館経営論	[杉長 敬治]	秋学期	38
資格関係科目	【C6737】	博物館資料論	[田中 裕二]	秋学期	39
資格関係科目	【C6738】	博物館教育論	[渡邊 祐子]	秋学期	40
資格関係科目	【C6739】	博物館教育論	[山下 治子]	秋学期	41
資格関係科目	【C6740】	図書館制度・経営論	[森 智彦]	秋学期	42
資格関係科目	【C6741】	児童サービス論	[田中 順子]	秋学期	43
資格関係科目	【C6742】	情報サービス論 (2013 年度より開設)	[田中 順子]	春学期	44
資格関係科目	【C6743】	情報資源組織論	[丹 一信]	春学期	44
資格関係科目	【C6744】	情報資源組織演習	[丹 一信]	年間	45
資格関係科目	【C6745】	情報資源組織演習	[村上 郷子]	年間	46
資格関係科目	【C6746】	情報資源組織演習	[竹之内 禎]	年間	47
資格関係科目	【C6747】	情報資源組織演習	[菅原 真悟]	年間	48
資格関係科目	【C6748】	学校図書館メディアの構成	[有吉 末充]	秋学期	49
資格関係科目	【C6749】	学校経営と学校図書館	[松田 ユリ子]	秋学期	50
資格関係科目	【C6750】	学習指導と学校図書館	[松田 ユリ子]	秋学期	51
資格関係科目	【C6751】	社会教育経営論	[御園生 純]	年間	52
資格関係科目	【C6752】	社会教育経営論	[御園生 純]	年間	53

資格関係科目	【C6753】	社会教育活動Ⅰ [桔川 純子] 春学期	54
資格関係科目	【C6754】	社会教育活動Ⅱ [佛木 完] 秋学期	55
資格関係科目	【C6755】	社会教育実習 [朝岡 幸彦] 年間	56
資格関係科目	【C6756】	博物館資料保存論 [今野 農] 春学期	57
資格関係科目	【C6757】	博物館資料保存論 [清水 玲子] 秋学期	58
資格関係科目	【C6758】	職業指導 (仕事の場と学び) [高橋 浩] 年間	59
資格関係科目	【C6759】	博物館展示論 [渡邊 尚樹] 秋学期	60
資格関係科目	【C6760】	博物館展示論 [渡邊 尚樹] 春学期	61
資格関係科目	【C6761】	博物館情報・メディア論 [柏女 弘道] 春学期	62
資格関係科目	【C6762】	博物館情報・メディア論 [石川 貴敏] 秋学期	63
資格関係科目	【C6763】	博物館実習Ⅰ [田中 裕二] 年間	64
資格関係科目	【C6764】	博物館実習Ⅰ [金山 喜昭] 年間	65
資格関係科目	【C6765】	博物館実習Ⅱ [小西 雅徳] 年間	66
資格関係科目	【C6766】	博物館実習Ⅱ [杉山 享司] 年間	67
資格関係科目	【C6767】	博物館実習Ⅲ [金山 喜昭] 年間	68
資格関係科目	【C6768】	ミュージアム資料保存論 [今野 農] 春学期	69
資格関係科目	【C6769】	ミュージアム資料保存論 [清水 玲子] 秋学期	70
資格関係科目	【C6770】	ミュージアム展示論 [渡邊 尚樹] 秋学期	71
資格関係科目	【C6771】	ミュージアム展示論 [渡邊 尚樹] 春学期	72
資格関係科目	【C6772】	ミュージアム情報・メディア論 [柏女 弘道] 春学期	73
資格関係科目	【C6773】	ミュージアム情報・メディア論 [石川 貴敏] 秋学期	74

生涯学習入門 I

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(授業の概要)

生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。

(授業の目的・意義)

授業内容とおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育の多様性と生涯学習の理念	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第 2 回	社会教育行政の事業①	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第 3 回	社会教育行政の事業②	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第 4 回	社会教育行政の事業③	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第 5 回	社会教育行政の事業④	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第 6 回	職業訓練としての社会教育	職業能力開発校などで行われる職業訓練について概観するとともに、社会教育行政との関連について解説する。
第 7 回	民間の社会教育事業	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。
第 8 回	子ども、若者、学校と社会教育①	「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。
第 9 回	子ども、若者、学校と社会教育②	学校教育と社会教育の連携、および、学校と地域社会の連携に関する現在の動向について解説する。

第 10 回	近現代日本の社会教育史①	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 11 回	近現代日本の社会教育史②	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 12 回	社会教育の国際比較	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第 13 回	「成人の学力」をめぐって	PIAAC（国際成人力調査）の調査概要とデータをふまえて、「成人の学力」について論じることの意味を解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習は特に必要ない。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・中間レポート、期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
- ・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【参考書】

香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントシート	50 %
中間レポート	25 %
期末レポート	25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

生涯学習入門 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門 I）では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設（図書館・公民館など）の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

生涯学習入門Ⅱ

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習、社会教育に関する事項について、基本的な文献の講読、学生による発表と討論をふまえて検討する。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する制度、実際に行われている各種の事業・実践について、それらを論じる際に不可欠な視点、また現実に課題となっている点を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、生涯学習、社会教育に関する基本的知識・視点を講義形式で復習する。その後、受講生の各グループが、授業 1 回分の講読文献の発表を担当し、各回とも、その発表をふまえたディスカッションを中心に進める。授業終了時に、各回の文献で示された論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育・生涯学習における基本事項①	授業全体の進め方について説明した上で、教育・受講者間で社会教育・生涯学習に関する問題関心を共有する。
第 2 回	社会教育・生涯学習における基本事項②	文献講読の前提となる基本知識、特に社会教育の実践・制度に関わる基本的事項を概観する。
第 3 回	社会教育・生涯学習における基本事項③	文献講読の前提となる基礎知識、特に社会教育の歴史、生涯学習の理念、学習者支援や学習関心・行動の理論に関わる基本的事項を概観する。
第 4 回	子ども・若者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 5 回	家庭教育支援と社会教育	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 6 回	学校教育と社会教育	文献講読及び討論を通じて、学校教育・社会教育の連携を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 7 回	高齢者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、高齢者対象の社会教育を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 8 回	職業・労働と社会教育	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。

第 9 回	成人の学習関心・行動の実態	文献講読及び討論を通じて、（特に成人の）学習関心・行動を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 10 回	社会教育行政の意義と課題①	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政に求められる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 11 回	社会教育行政の意義と課題②	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政の制度を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 12 回	生涯学習・社会教育の概念①	文献講読及び討論を通じて、「ノンフォーマル教育」という概念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 13 回	生涯学習・社会教育の概念②	文献講読及び討論を通じて、社会教育に関わる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの発表とディスカッションについて、各グループでの議論をふまえて論点を提示してもらい、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の文献講読、（発表担当の場合）文献の要約とコメントが、予習として必要である。
- ・各回の授業後、文献および発表レジュメを読み直すこと。また、前回の授業のコメントシートに書かれた内容については、教員が適宜授業内で抜粋して配布し、リプライするので、そこで配布された自分以外のコメントについても目を通しておくこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読文献は多岐にわたるため、授業内で紹介する。なお講読文献は基本的に PDF ファイル化して、受講者に配布する。

【参考書】

- 香山正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年
- 松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

- グループでの文献発表 30 %
- 各回のコメントシート 40 %
- 各回のディスカッションへの貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

In this course we examine major issues on lifelong learning and social education by text reading, presentation, and discussion. This course aims to help students understand the viewpoints indispensable to discussing lifelong learning and social education, and to widen students' perspective on education and learning.

生涯学習入門Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習と ESD の関係を通して、現代的な課題について考える。
第 3 回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 6 回	戦後日本社会教育の流れ④	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 7 回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の実践①	日本の農業と近代化という視点から農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第 10 回	社会教育・生涯学習の実践③	巻原発住民投票における住民の学習を事例に地域づくり学習のあり方を考える。
第 11 回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第 12 回	社会教育・生涯学習の実践⑤	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の過去から未来へ	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの購読。

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育 増補版』エイデル研究所 2015 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】

Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

図書館情報学概論 I

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用、およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身に付け、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して、基本的な考え方・知識・技法、社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が、図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか、その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館・情報学とは何かについて、さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し、続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は、単に図書を集め、保存し、提供するという役割だけではなく、様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また、ネットワーク時代の図書館サービスも含め、実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたりコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
4	図書館の諸機能 (1)	間接サービス、テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
5	図書館の諸機能 (2)	直接サービス、レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規(図書館法、著作権法など)について簡単に解説します
7	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。 また図書館経営について考えるとともに、図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに、図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに、図書館での資料の保存についても解説します
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス、ヤングアダルトサービスについて解説します
12	情報検索 (1)	情報検索の基本的な考え方について説明します
13	情報検索 (2)	情報検索の手法などについて例示を含めて説明するとともに、情報検索システムについても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を実際に使用したり、情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

逸村裕（ほか）編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第 3 版 (丸善) など (必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、後日、皆さんの履修状況を見てから決定いたしますが、現時点では以下の予定です。
・授業への参画：20% Zoom での授業時にはマイクとビデオをオンにしてください
・レポート：80% 4~5 回のレポートを課す予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業ページとの対応を充実させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

初回授業から zoom で行います。zoom 授業については原則としてビデオ ON で受講していただきます。

zoom へのアクセス方法は、「学習支援システム」に掲示していますのでご覧ください。

【Outline and objectives】

Basic knowledge on library and information science

図書館情報学概論 I

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム (HULiC) を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッションなども取り入れる。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史②	近世～現代
13	外国の図書館 図書館の類縁機関・関係団体 図書館の課題と展望	アメリカ、イギリス、北欧、中国等 国際機関、図書館協会、図書館関係団体等 図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ) ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認アンケートクイズ (30%)、図書館ガイダンスのレポート (20%)、筆記試験 (50%) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】

本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】

As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

図書館情報学概論 II

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術（図書館システム、Web ページを用いた情報発信など）
3. データの管理を中心とした技術（データベース管理システム、デジタルアーカイブなど）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し、取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に、どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境、各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず、コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後、図書館システムやデータベース管理システム、WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたりコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していききます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML, CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版、電子書籍	電子書籍について学ぶとともに、さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに、セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本重雄編著、図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ 3）、2014、224p。ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。Zoom での授業の場合は原則としてビデオとマイクをオンにさせていただきます。

レポート 40%

4～5 回のレポートを課す予定ですが、レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 80% とします。

期末試験 40%

COVID-19 などの影響により期末試験を行わない場合は、全てレポートとします。その場合にはレポート 80% とします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスとの対応の充実

【その他の重要事項】

授業は現時点では zoom で行う予定ですが、COVID-19 の状況などによっては対面での授業も併用するなどの手段で行う可能性があります。開講時期が近くなった時点であらためて確認してください。

なお、zoom で授業する場合、原則としてビデオは ON としていただきます。

【Outline and objectives】

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です（COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます）コンピュータ、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

また授業ごとに課題を提示します。課題については、メッ後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

田中均著. 図書館情報技術論 青土社, 2019. ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 小課題 35% 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業はリアルタイムのオンライン授業です。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館情報学概論 II

菅原 真悟

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。

・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。

・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/>

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%

課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です（COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます）コンピュータ、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

また授業ごとに課題を提示します。課題については、メッ後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにおけるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

田中均著. 図書館情報技術論 青土社, 2019. ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 小課題 35% 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館サービス概論

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】

図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。単に講義だけではなく、図書館サービスにおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆時点では、教室での対面授業を仮定しています。講義形式の進行予定です。更にグループごとのディスカッションやリアクションペーパーのコメントを取り上げながら授業を進めます。リアクションペーパーについては、毎回、配布します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 図書館サービスとは	ガイダンス（授業の概要、進め方） 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互貸借と図書館ネットワーク ・広域利用制度について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、事例をもとに考えます。
第 10 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 11 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 12 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について
第 13 回	児童サービス	特色ある児童サービスについて

第 14 回 事例研究

海外の図書館の事例を通して、図書館サービスについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『図書館サービス概論』 小黒浩司著 ミネルヴァ書房 2018 本体 2,800 円＋税
ISBN : 9784623083961

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %) 期末課題 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

実際の図書館における事例紹介は授業の理解を促しました。今年度も事例をあげながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
司書課程授業支援システム「Hulic」を用いて、資料の配布、レポート提出を行います。

【その他の重要事項】

対面授業の実施が困難となった場合には、授業内容に変更が生じます。各自、学習支援システム等からのお知らせに注意してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

情報サービス演習

田中 順子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ②論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③トラン ケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の 情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタ ビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタ ビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に 対する調査
26	情報発信型サービスの実 際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例 について解説
27	情報発信型サービスの実 際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サー ビスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋 学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

田中 順子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ②論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③トラン ケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の 情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタ ビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタ ビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に 対する調査
26	情報発信型サービスの実 際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例 について解説
27	情報発信型サービスの実 際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サー ビスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋 学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の2点を主に扱う。

1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。
- ・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
- ・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第2回	図書検索(1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第3回	図書検索(2)	検索演算子を使った検索演習。
第4回	図書検索(3)	検索式を用いた検索方法。 NDL-OPAC。
第5回	情報サービス(1)	情報サービスの現状。
第6回	情報サービス(2)	レファレンス事例データベース。
第7回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第8回	論文検索(1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第9回	論文検索(2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第10回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第11回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第12回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第13回	さまざまなデータベースを使う(1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第14回	さまざまなデータベースを使う(2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第15回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第16回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第17回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第18回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第19回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第20回	理系論文検索(1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第21回	理系論文検索(2)	医学系論文を探す。
第22回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第23回	発表会(1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第24回	CMS 演習(1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第25回	CMS 演習(2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第26回	CMS 演習(3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第27回	CMS 演習(4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。

第28回 発表会(2) 新しい発信型 発信型情報サービスについて、情報サービス 個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム (<https://hoppii.hosei.ac.jp/>) のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>) も使います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内演習への参加 30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表 30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

Purpose and Goal

1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』の種類に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。
第 13 回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。

第 14 回 まとめ

試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL を掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。

ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of various library information resources.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史① （紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史② （印刷革命（1）木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③ （印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、 人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション 構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史① （紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の 伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史② （印刷革命（1）木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③ （印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、 人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション 構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるため、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

Learn about information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他已評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30 %）
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）

(3) 個人のレポート（40 %）

全ての提出物は授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「(2) グループ活動・授業への参加（出席）・(30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他已評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書 (30%)
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30%)

(3) 個人のレポート (40%)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80% を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席)・(30%)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館演習

坂本 旬

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。新型コロナ感染症流行が続く場合、Zoomを用いたオンライン授業とする。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面を実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ

23	コア・モジュール7情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』（日本語版・英語版）

右のサイトからダウンロードできる。<http://amilec.org/>

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でも十分なディスカッションを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータを使用する。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】

実習として映像制作（デジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline and objectives】

Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.

(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.

(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.

(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.

図書館演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。

秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。

春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意

23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル（予備）	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。

秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 % + 秋学期 20 % = 合計 35 %）
- (2) 個人の課題・アンケート+個人の覆面調査など（25 %）
- (3) 課題研究に関する報告書+学期末レポート（40 %）

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】

In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定3級合格レベルとすることです。各種データベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実地についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定3級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。毎回アクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULic) の利用方法
第2回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第3回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第4回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類
第5回	情報資源と情報サービス機関②	・データベース、ポータルサイト ・情報資源の組織化
第6回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	・情報サービス機関と情報サービス ネットワーク情報資源の検索
第7回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	・ネットワーク情報資源の種類 ・検索エンジン、深層ウェブ
第8回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習 ・図書、雑誌について
第9回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	ネットワーク情報資源の検索演習 ・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第10回	知的財産権①	知的財産権の概要について
第11回	知的財産権②	著作権について
第12回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第13回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識
第14回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。

第15回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表 (web にて)	秋学期授業ガイダンス
第16回	専門図書館①	専門図書館の概要
第17回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第18回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第19回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第20回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第21回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第22回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第23回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第24回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第25回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第26回	検索技術者検定3級①	検索技術者検定3級試験解説
第27回	検索技術者検定3級②	検索技術者検定3級過去問解説 2017～2019
第28回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第22回図書館総合展、2021年11月9日～11日の3日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで4月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）

また当科目は検索技術者検定3級受験及び合格を目標としています。< = > こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第2版: 検索技術者検定3級公式テキスト., 樹村房, 2020, ix, 147p.

ISBN 9784883673407

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

初回授業には必ず出席してください。必須です。

新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー1級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定3級合格レベルとすることです。各種データベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実地についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定3級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。毎回アクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULic) の利用方法
第2回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第3回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第4回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類
第5回	情報資源と情報サービス機関②	データベース、ポータルサイト ・情報資源の組織化
第6回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	情報サービス機関と情報サービス ・ネットワーク情報資源の種類
第7回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	・検索エンジン、深層ウェブ ・ネットワーク情報資源の検索演習
第8回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	・図書、雑誌について ・ネットワーク情報資源の検索演習
第9回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	・雑誌記事、新聞記事 ・ネットワーク情報資源の検索演習
第10回	知的財産権①	・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ 知的財産権の概要について
第11回	知的財産権②	著作権について
第12回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第13回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識
第14回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。

第15回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表 (web にて)	秋学期授業ガイダンス
第16回	専門図書館①	専門図書館の概要
第17回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第18回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第19回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第20回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第21回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第22回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第23回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第24回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第25回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第26回	検索技術者検定3級①	検索技術者検定3級試験解説
第27回	検索技術者検定3級②	検索技術者検定3級過去問解説 2017～2019
第28回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第22回図書館総合展、2021年11月9日～11日の3日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで4月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）

また当科目は検索技術者検定3級受験及び合格を目標としています。< = > こちらは授業内容と強く関わります。 <https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/>

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第2版: 検索技術者検定3級公式テキスト., 樹村房, 2020, ix, 147p.

ISBN 9784883673407

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 <https://jsla.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 単に出席しているだけでなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

<https://lc.i.hosei.ac.jp/>

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

初回授業には必ず出席してください。必須です。

新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー1級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

読書と豊かな人間性

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育について、そのねらい、発達段階に応じた方法について学び、学校図書館ができることを考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】

読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもの読書の効果、発達段階をどう考えるか、読書指導のねらいと方法の既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1回はゲスト講師による実演を味わう。授業内課題に対しては受講生同士の討論や講師からのコメントによって授業内容の理解を深めていく。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	読書と豊かな人間性とは	読書教育をどうとらえるか
第2回	読書とは何か	メディアの発達と物語需要の変化 推薦本のプレゼン「この本オススメ！」(2回以降毎回行う)
第3回	読書の効果	なぜ読書は必要か、読書が及ぼす効果
第4回	子どもの読書をめぐる状況(1)	文部科学省の施策、子どもの読書に関する法律など
第5回	子どもの読書をめぐる状況(2)	OECD 学習到達度調査
第6回	読書と発達段階	読書の発達段階と指導
第7回	読書教育を考える(1)	朝の読書 読書感想文コンクール
第8回	読書教育を考える(2)	日米比較 フィンランド・メソッド
第9回	本の面白さを伝えるために(1)	読み聞かせ ブックトーク
第10回	読書指導の実践	ゲスト講師による読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク
第11回	本の面白さを伝えるために(2)	展示、パスファインダー
第12回	図書館見学	図書館でのサービス方法の調査
第13回	本の面白さを伝えるために(3)	読書のアニメーションと表現教育
第14回	発展的指導の方法	読書指導プランの中間発表 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この本オススメ!」の発表や課題のために児童や YA 向けの本（絵本や児童文学を含める）に対する調査が必要になる。学校図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作る。準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『鍛えよう！読むチカラ 学校図書館で育てる 25 の方法』 桑田てるみ監修
「読むチカラ」プロジェクト 明治書院 2012
『読み聞かせ この素晴らしい世界』 ジム・トレリス 亀井よし子訳 高文研 1987
『読書と豊かな人間性 新版』 朝比奈代作 米谷茂則 放送大学教育振興会 2015

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「この本オススメ!」、レポート課題など。
平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40%
課題（「この本オススメ!」の発表、見学レポート）：30%
読書指導の最終課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

実践的な内容を取り上げるよう心がける

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目であるが、司書教諭資格を必要としない読書や読み聞かせに関心のある学生も受講できる。

【Outline and objectives】

読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

情報メディアの活用

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基本的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報紙：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるプレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報紙制作（その1）、各班の広報紙タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報紙制作（その2）、広報紙の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報紙制作（その3） 広報紙の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報紙制作を行う。課題をしっかりとこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

・山本 順一・気谷 陽子著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、三訂版、2016
・五十嵐 絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30%）、個人のプロジェクト作品（30%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身につけているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】

Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

情報メディアの活用

坂本 旬

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】

- (1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。新型コロナウイルス感染症流行が続く場合は、Zoomを用いたオンライン授業とする。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程用授業支援システム (HULiC) を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』（法政大学出版局）2014 年

【参考書】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』

右のサイトからダウンロードできます。<http://amilec.org/>

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になっても積極的にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナウイルス感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

社会教育演習

久井 英輔

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）

社会教育実践分析に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。また、その視点、知識を活用して、実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。

（授業の目的・意義）

文献講読、実地調査、レポート作成を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】

社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読（発表・討論）を通じて学ぶ。後半は、社会教育施設等での実地調査や、既存の社会教育実践分析の事例の検討を踏まえて受講者各自で実践分析のレポートを作成し、それを基に討論を行う。学生の文献講読発表、実践分析レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育実践分析の概観①	演習の実施方法について問題関心を共有する
第 2 回	社会教育実践分析の概観②	学習活動としてみたときの社会教育の位置づけについて、概観する。
第 3 回	社会教育実践分析の概観③	社会教育実践の歴史的展開について、概観する。
第 4 回	社会教育実践の場を知る①	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第 5 回	社会教育実践の場を知る②	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 6 回	社会教育実践の場を知る③	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 7 回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第 8 回	社会教育の制度を捉える②	社会教育行政の仕組みとその課題について、文献講読を通じて理解する。
第 9 回	社会教育の制度を捉える③	社会教育における行政・施設職員や支援者の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。

第 10 回	社会教育における連携を探る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第 11 回	社会教育における連携を探る②	社会教育行政と学校教育の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 12 回	社会教育における連携を探る③	社会教育行政と住民自治活動、地域振興活動の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 13 回	実地調査の構想発表①	社会教育施設の実地調査に際して、各受講者が具体的な問題関心を発表する。
第 14 回	実地調査の構想発表②	社会教育施設の実地調査における具体的な調査項目について、各受講者が自身の問題関心に基づいて発表する。
第 15 回	社会教育施設・実践の実地調査①	社会教育施設を訪問し、事業の見学、施設経営に関する職員からの説明を受ける。
第 16 回	社会教育施設・実践の実地調査②	社会教育施設を訪問し、事業、施設経営に関して、職員に対するインタビュー調査を行う。
第 17 回	実践分析の方法論①	公民館のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 18 回	実践分析の方法論②	青少年教育施設または女性教育施設のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 19 回	実践分析の方法論③	社会教育施設経営に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 20 回	実践分析の方法論④	社会教育職員、支援者の専門性に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 21 回	実践分析の方法論⑤	社会教育行政事業と学校教育との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 22 回	実践分析の方法論⑥	社会教育行政事業と住民自治活動・地域振興活動との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 23 回	調査レポート作成の進捗状況発表①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 24 回	調査レポート作成の進捗状況発表②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 25 回	調査レポート作成の進捗状況発表③	社会教育行政と多様な主体との連携のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 26 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 27 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 28 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論③	社会教育行政と多様な主体との連携をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。

- ・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
- ・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な執筆を心がけること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

鈴木真理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015 年
 鈴木真理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015 年
 鈴木真理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

社会教育実践に関する個人レポート 40 %
 文献講読発表 30 %
 討論への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「社会教育演習」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための科目である。

【Outline and objectives】

In this course student are needed to read texts, make presentation, and discuss the topics for learning basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities. Students are also needed to conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to write reports utilizing data of the survey.

This course aims to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.

生涯学習支援論 I

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(授業の概要)

社会教育の場における様々な学習者の特性や、それらの学習活動を支援する手法の基本的な考え方について解説する。

(授業の目的・意義)

多様な学習者の特性に関する議論や学習者への支援手法について、これらを単に手段的な知識として理解するだけでなく、その社会的・歴史的背景をふまえることにより、社会教育における学習支援のあり方を深く理解する。

【到達目標】

社会教育における学習者の特性に関する基本的な理論、学習支援の手法に関する基本的な手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。必要に応じて、コメントシート提出に代え、重要な論点に関するグループ・ディスカッションと全体での議論の共有などを行う場合もある。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習・社会教育における多様な学習者	学校教育と比較したときの生涯学習・社会教育における学習者の多様性について概観する。
第 2 回	自己教育、相互教育の思想と方法①	学習者の自発性と相互性を重視した戦前期日本の先駆的な理念・実践について解説する。
第 3 回	自己教育、相互教育の思想と方法②	初期公民館構想（寺中構想）や共同学習論など、学習者の自発性と相互性を重視した戦後日本の主要な理念・実践について解説した上で、そこに見られる学習支援の考え方について理解を深める。
第 4 回	成人学習論の展開①	M. ノールズの提唱したアンドラゴジー、自己主導的学習など、成人学習論の基礎的な知見とそれらの社会的・歴史的背景について解説する。
第 5 回	成人学習論の展開②	J. メジローの変容的学習理論など、ノールズ以後の成人学習論の展開とその意義について解説した上で、成人学習論の実践的意義について理解を深める。
第 6 回	高齢者への学習支援①	学習者としての高齢者の特性や、高齢者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。

- 第7回 高齢者への学習支援② 高齢者を対象とした学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
- 第8回 子ども・若者への学習支援① 社会教育における学習者としての子ども・若者の特性や、子ども・若者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
- 第9回 子ども・若者への学習支援② 高齢者を対象とした社会教育の学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
- 第10回 生涯発達論の展開 R. ハヴィガースト、E. エリクソン、D. レヴィンソンら、生涯にわたる発達を視野に入れた代表的な議論について解説する。
- 第11回 特別な支援を要する学習者への視点① 学習活動への参加に対して、障害など様々な理由から困難を抱える学習者の状況や、社会教育における「合理的配慮」のあり方について解説する。
- 第12回 特別な支援を要する学習者への視点② 社会教育施設や学習プログラムにおける「合理的配慮」の事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
- 第13回 オンラインによる学習支援の現在 COVID-19 対策として現在各地の社会教育現場で取り組まれている、オンラインの学習支援の取り組みの意義と課題について解説する。
- 第14回 授業の振り返り 前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基にグループ・ディスカッション等の形を用いて、授業内容全体についての理解を深める。

This course aims to deepen students' understanding of various types of learners and basic methods for supporting their learning activities so as to understand these topics not only as instrumental knowledge, but also from the viewpoint of their social and historical context.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の授業の前に教科書の関連箇所を予め読んでおくこと。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所、コメントシートに対する教員のリプライの内容を確認すること。
- ・最終レポートの課題を意識しつつ、これらの予復習を行うこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年

【成績評価の方法と基準】

コメントシート 25 %
ディスカッションへの貢献度 25 %
最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with knowledge and viewpoints on characteristics of various learners and methods for supporting learners in social education.

生涯学習支援論 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。

主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の定義と役割の変化について学ぶ。
第 7 回	学校一斉休校は正しかったのか？	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）での教育政策のあり方を通して学習支援について考える。
第 8 回	学校と教育委員会	COVID-19 での学校と教育委員会の対応を通して学習支援について考える。
第 9 回	公民館・社会教育施設	COVID-19 での公民館・社会教育施設の対応を通して学習支援について考える。
第 10 回	図書館	COVID-19 での図書館の対応を通して学習支援について考える。
第 11 回	博物館・美術館・動物園・水族館	COVID-19 での博物館・美術館・動物園・水族館の対応を通して学習支援について考える。
第 12 回	屋外教育施設・自然学校	COVID-19 での屋外教育施設・自然学校の対応を通して学習支援について考える。
第 13 回	生涯学習社会を生み出す力	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に職員はどう向き合ったのか、どのように対応すべきなのかについて考える。
第 14 回	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水谷哲也・朝岡幸彦編著『感染症と教育』筑波書房 2021 年（5 月刊行）

【参考書】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

生涯学習支援論Ⅱ

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育における実践的な学習支援技法、学習プログラムの作成手法について解説し、学んだ知識を活用した学習プログラム案作成のグループワークを行う。

（授業の目的・意義）

グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは支援者にもとめられる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】

社会教育における様々な学習支援技法（ワークショップ、ファシリテーションの技法など）や、それらの技法を利用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、基本的な学習支援技法、学習プログラム作成の基本的な手法に関する講義を行う。その上で、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークによって学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成していく。作成した学習プログラム案については、教員からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの課題に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して、及び、メールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な学習支援技法①	社会教育の学習プログラムにおけるグループワークで用いられる諸技法について解説する。
第 2 回	多様な学習支援技法②	社会教育の学習プログラムにおいて用いられるファシリテーションの基本的な考え方について解説する。
第 3 回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第 4 回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第 5 回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第 6 回	社会教育の現場における学習プログラム①	公民館または生涯学習センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。

第 7 回 社会教育の現場における学習プログラム②

青少年教育施設または男女共同参画センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。

第 8 回 地域課題の把握①

任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について把握する。

第 9 回 地域課題の把握②

前回の個人ワークの成果を基に、グループワークによって学習プログラムを作成する際に前提とする地域を選定し、地域課題に関する考察を深める。

第 10 回 学習プログラム案の作成①

学習プログラムの目的・概要、事業評価の方法をグループワークで作成する。

第 11 回 学習プログラム案の作成②

学習プログラムの各回実施内容の詳細を、グループワークで作成する。

第 12 回 学習プログラム案の作成③

学習プログラムにおいて実施する受講者アンケート案を、グループワークで作成する。

第 13 回 学習プログラム案の作成④

学習プログラムの内容に対応した広報案を、グループワークで作成する。

第 14 回 学習プログラム案の発表と検討

グループ毎に完成した学習プログラム案を発表し、ディスカッションをとおして、改善すべき点を把握する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年

【成績評価の方法と基準】

地域課題把握に関する個人レポート 25 %
学習プログラム案の発表 25 %
グループワーク、ディスカッションへの貢献度 25 %
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート） 25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with knowledge on practical methods for supporting learners and for planning learning programs in social education. Addition to this, this course supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.

This course aims to help students acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

生涯学習支援論Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「湿地」というフィールドを設定し、そこにおける湿地教育のあり方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりや専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、フィールドの特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「社会に埋め込まれた学習」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「学習」の特質を考える。
2	SDGs と「湿地」というフィールドの意味	「湿地」というフィールドが SDGs においてどのような意味をもつのかを考える。
3	「湿地教育」という概念について	「湿地教育」という概念について、教育的な意味を考える。
4	水のつながりに生きる学び	「水」をとおしてどのような学びが成立し、そこにどのような「つながり」が生まれるのかを考える。
5	CEPA における体験学習の役割	湿地の保全・活用における CEPA の意義を検討することを通して、体験学習の意味と支援について考える。
6	学校教育における海洋教育の展開	学校における海洋教育の実践を通して、学校教育における学習支援の方法について考える。
7	「海洋教育」という物語	気仙沼市を事例に、「海と生きる」ことの意味を問う学びについて考える。
8	タンチョウ保護と共生のための湿地教育	釧路湿原におけるタンチョウの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
9	ツルに関わる環境教育・活動の意義	出水市におけるナベヅル、マナヅルの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
10	地域づくりと「湿地の文化」教育	「湿地の文化」という視点から地域づくり学習と学習支援のあり方について考える。
11	エコロジストが考える地域の人づくり	エコロジーと地域づくりという視点から、人材養成のあり方を考える。
12	「湿地」をめぐる多様な学習と学習支援	「湿地」というフィールドに存在する多様な学習のあり方を通して、その学習支援の意味について考える。
13	学習支援の「現場」について	社会教育・生涯学習において学習を支援する仕事において、「現場」（フィールド）がもつ意味について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

朝岡幸彦・笹川孝一・日置光久編著『湿地教育・海洋教育』筑波書房 2019 年

【参考書】

随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

テキスト等からの課題レポート（ワークシート） 80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートをもとに改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、(できれば) 携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他】

授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】

To make concrete and profound understanding of learning support, we will place "wetland" as a field to learn the method and problems of learning support. The course's aim is to understand the expertness and extension of learning support.

現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業と「職場における学び」の関係性について学ぶ。授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。

その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。

学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。

希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当て、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。

毎週提出してもらいうりアクションペーパーに対してはできる限り次回の授業までにフィードバックし、また授業内でも取り上げる。

学期末の発表に対しては個々へのフィードバックし、授業内でも講評する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と企業と社会教育 1	ランドセル会社羅羅屋を素材に、地域の産業の移り変わりや地域の社会教育の変化について学び、議論する。
第 6 回	地域と企業と社会教育 2	地域企業の事例研究 1（地域企業の事例について学び、議論する）
第 7 回	地域と企業と社会教育 3	地域企業の事例研究 2（地域企業の事例について学び、議論する）
第 8 回	地域と企業と社会教育 4	地域企業の事例研究 3（地域企業の事例について学び、議論する）
第 9 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 4（地域企業の事例について学び、議論する）
第 10 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 5（地域企業の事例について学び、議論する）
第 11 回	地域企業と社会教育 1	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 12 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 13 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）

第 14 回 まとめ

それまでの授業内容を踏まえて、「地域企業と社会教育」の関係、社会教育士・社会教育主事・地域学習コーディネーターの役割を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。準備とは、学期末の発表に向けた時間。復習とは授業内容についての個々の振り返りとリアクションペーパーを書き、提出することである。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

座学のあとにグループワークをおこない、講師の一方的な授業進行は行わない。

【その他の重要事項】

外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。

実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。

講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努る。

授業で使ったスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

提出してもらったリアクションペーパーには可能な限り返信する。

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and "learning in the workplace".

The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called "Randoseru") company in Aizuwakamatsu.

Afterwards, other local companies case studies will be introduced.

In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations.

Fieldwork will be conducted for those who are interested.

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木 美貴

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき（Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA）の実践例等を取り上げる。

【到達目標】

①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技（文化と技術）が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、④社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力、以上4点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、身近な自然を活かした暮らし	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を活かした暮らしについて考える。
第2回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第3回	私たちの暮らしと自然を活かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を活かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第4回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第5回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第6回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育 (ESD)」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第7回	社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力	社会教育主事や社会教育士に求められる、課題を解決するための学習支援の能力について考え、クラス内でディスカッションする。
第8回	自然の恵みの文化①（保全・再生）	新潟の「潟普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第9回	自然の恵みの文化②（ワイズユース）	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第10回	自然の恵みの文化③（CEPA）	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第11回	これからの社会教育と身近な自然を活かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第12回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第13回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に作る。また、互いのプログラムに評価する手法を考える。

第14回 社会教育プログラムの発表会・まとめ 実際に行った社会教育プログラムを発表し、互いに評価し合う。また、授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を1つ探し、そこを活かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べる。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012年 授業内で配布

【参考書】

生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等 必要に応じて授業内で配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）と作成した社会教育プログラムの発表（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline and objectives】

Focusing on lectures and videos, we will also investigate and report on community development that makes the most of the nature around us, and create social education programs. Also, biodiversity that is closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the treaty and the Ramsar treaty and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced in various parts of Japan, specific examples of wisdom and techniques that support them, and practical examples of CEPA (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness) will be taken up.

博物館概論

金山 喜昭

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	博物館とは何か？博物館の定義などについて概説する。
第2回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第3回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第4回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第5回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第6回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第7回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第8回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第9回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第10回	博物館と地域社会Ⅰ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第11回	博物館と地域社会Ⅱ	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第12回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第13回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第14回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館をNPOに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40%）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。

最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	博物館の使命・社会的役割Ⅰ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 6 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 7 回	博物館の使命・社会的役割Ⅱ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 8 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第 9 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 10 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 11 回	博物館における連携・ネットワーク	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館経営調査Ⅰ（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営調査の実際（報告／討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 14 回	本授業の総括	本授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長 敬治

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントや授業内容に即した課題レポートは、授業で取りあげ、講義内容の理解を深めるために活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。

11	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭篇、同成社、2020年4月22日発行、価格2,700円+税）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】

①ミュージアム・マーケティング、F・コトラ、N・コトラ、第一法規、②マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④公立博物館をNPOに任せたら、金山喜昭著、同成社、⑤博物館と地方再生、金山喜昭著、同成社、⑥思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑦文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑧その他（授業中に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。レポートの配分は、①授業期間中の指摘した時期に提出す課題レポート（授業時に示す課題から5題を選択して提出）が50%、②第14回授業時に提出する課題レポートが50%です。②の課題レポートは、i 指定した教科書、講義内容から出題するもの又はii（新型コロナウイルス感染症がおさまり、博物館の見学に支障がない状況になれば）特定の博物館に関する経営分析に関するもの、2つの何れかを選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

教材の配付や諸連絡は、授業支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思えます。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

博物館資料論

田中 裕二

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」「公開」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを旨とする。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。提出されたレポートはコメントを付して返却すると共に、授業内で取り上げ課題とコメントを共有する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第2回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第3回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第4回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第5回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第6回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第7回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第8回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第9回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第10回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第11回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第12回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第13回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性化など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第14回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。レポート課題作成のため若干の入館料が発生する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）：50%
期末試験（論述）：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は完全オンラインだったため、コミュニケーションが取りにくかったが、今年度はオンデマンドと対面のハイブリッドを予定しており、活発な意見交換を期待したい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

渡邊 祐子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】

実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要なとされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、「博物館教育」(museum education) とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び(object-based learning) について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践事例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。(前半)
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。(後半)
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。

授業外の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

J.H. フォーク・L.D. ディアキン『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため、特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the philosophy and learning theory of museum education. And also you will deepen your understanding of the educational role and significance of museums through concrete examples of museums at home and abroad.

博物館教育論

山下 治子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【成績評価の方法と基準】

(出席数+リアクションペーパー) (50%) + レポート (30%) + 学期末試験 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

図書館制度・経営論

森 智彦

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。

利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で課題の提出を求めることがある。課題の提出・回答の提示、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	図書館法の成り立ち(1)	図書館法の位置づけ
第2回	図書館法の成り立ち(2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第3回	図書館経営の意義と基本的な考え方(1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第4回	図書館経営の意義と基本的な考え方(2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第5回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第6回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第7回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第8回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第9回	PRとマーケティング	PRとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第10回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第11回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第12回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第13回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第14回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおいてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学4）』学文社、2019

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編、『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）樹村房、2013

その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（50％）、レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の要点をわかりやすくする。

【Outline and objectives】

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

児童サービス論

田中 順子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について。児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	公立図書館と、学校図書館、他の施設との連携について
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込みを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2014

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会

『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内の発表（20％）と中間レポートの提出（30％）、学期末のレポート（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】

The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class, students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

情報サービス論（2013年度より開設）

田中 順子

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュ	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュ
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について (1)	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について (2)	各種情報源の解説と評価
10	情報源について (3)	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

山崎久道編集『情報サービス論』樹村房（改訂版ではありません）

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内発表（20%）と課題調査（30%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

情報資源組織論

丹 一信

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。

これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深めることを目的とする。

なお、本科目は情報資源組織演習を受講するにあたって重要であるので、出来るだけ早い学年で受講することを勧めたい。

【到達目標】

図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などをPC画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事項を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。

授業は講義形態が中心である。

なお授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかり上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用予定である。

COVID-19(新型コロナウイルス)による授業への影響が予想されるため、初回授業のガイダンスは極めて重要である。3月上旬時点で、少なくとも初回授業はオンライン授業の予定である。リアルタイムでガイダンスを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報資源組織化の意義	情報資源組織化の意義と理論
3	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
4	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
5	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
6	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
7	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
8	件名とシソーラス	基本件名標目表を中心に、シソーラスについても学ぶ
9	MARC、書誌ユーティリティ	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
10	OPAC Web OPAC	書誌ユーティリティの役割とMARCについて
11	書誌情報の提供（OPACの運用）	OPACの進化の歴史について
12	ネットワーク情報資源の組織化	実際の図書館業務におけるOPACの運用方法を学ぶ
13	メタデータ	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
14	多様な情報資源の組織化	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

公共図書館や大学図書館をよく利用し、OPACや排架について馴染んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

(1) 竹之内 禎, 山口 洋, 西田 洋平. 情報資源組織論. 東海大学出版部, 2020, ix, 158pp.

【参考書】

(1) 田窪 直規, 飯野 勝則, 小林 康隆, 原田 智子, 山崎 久道, 渡邊 隆弘. 情報資源組織論. 3訂, 樹村房, 2020, xvii, 232pp.

(2) 榎本 裕希子, 石井 大輔, 名城 邦孝. 情報資源組織論. 第 2 版, 学文社, 2019, 157pp.

(3) 長田 秀一. 情報資源組織化の理論と展開. サンウェイ出版, 2020, viii, 267pp.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70% 平常点 (小 web テスト含む) 30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 実際の実務を念頭においた授業を展開する。
- ・ 図書館関連職種への就職を考えている学生への情報提供も行う。
- ・ 前年度のアンケートでも、コメントシートを通じて、あらゆる質問に答えることは好評であった。本年度も継続して実施する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

時々 PC を使用

【その他の重要事項】

本シラバスの内容は、2020 年冬に大学より提示された 2021 年度授業方針に沿って記述している。しかし COVID-19 の感染状況、ワクチンの接種状況により、変更が生じる可能性も多分にある。変更の際には、別途、あらかじめ説明する。なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせしてほしい。

【Outline and objectives】

This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.

In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.

The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

情報資源組織演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行ないます。図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。また情報資源組織論の授業と密接に連動しています。

【到達目標】

多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

- ① 図書、継続資料、電子資料等の書誌を正確に記述できること
- ② 各分野の情報資源の分類記号を付与できるようになること
- ③ 基本件名標目表を正しく使いこなせるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規、BSH、日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用します。

尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修するのが極めて望ましいです。

人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスの影響により、諸事変更となる可能性があります。初回ガイダンスは重要です。初回の授業はリアルタイムのオンライン授業となります。必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスが中心
2	単行資料の書誌記述 1 タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ 1 タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述 2 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ 2 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述 3 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ 3 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実際について
6	各種資料の記述（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実際について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習 1	MARC を用いた組織業務について（JAPAN MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習 2 NACISIS-CAT その実際	NACISIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
10	ネットワーク情報資源について（メタデータ作成の実際）	ダブリンコアに基づきメタデータの演習を行う
11	・主題分析について ・件名標目の付与 1	・主題の分析の仕方 ・基本件名標目表の概要
12	件名標目の付与 2	細目について
13	件名標目の付与 3	・分類記号からの付与 ・件名規定
14	件名標目の付与 4	件名標目総合演習課題
15	日本十進分類法による分類作業	NDC の基本原則について
16	分類記号付与の実際 1	形式区分について
17	分類記号付与の実際 2	地理区分・海洋区分について

18	分類記号付与の実際 3	言語区分について
19	分類記号付与の実際 4	言語共通区分・文学共通区分
20	分類記号付与の実際 5	分類規程に基づいて付与する
21	分類記号付与の実際 6	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
22	分類記号付与の実際 7	分類・件名総合演習 1 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
23	分類記号付与の実際 8	分類・件名総合演習 2 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
24	分類記号付与総合演習	各々の総合演習課題を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
26	書誌データ管理、検索システムの構築 2	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
27	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
28	総合演習課題	春学期の記述目録法、秋学期の主題目録法に基づいて、演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を毎授業ごとに課します。また本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】

- ①蟹瀬 智弘. やさしく詳しい NACSIS-CAT. 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.
 - ②宮沢 厚雄. 目録法キイノート. 樹村房, 2016, 104pp.
 - ③宮沢 厚雄. 分類法キイノート. 第 3 版補訂, 樹村房, 2020, 104pp.
- そのほか随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。

演習課題 50% 期末試験 30% (定期試験期間内)

平常点 20%

授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを絞った授業進行にします。

また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。

アンケート結果を更に反映し、実務に則した事例を多く演習する様にします。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用します

また授業では、Hulic を使用します。http://lci.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

PC については、私物のものでも構いません。

PC の操作になれておいてください。

教科書は必須です。

毎回、課題が課されます。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー・目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法、データベース構築の基礎を中心に授業を行います。

初回授業時に履修者の抽選を行います。20 名まで。

必ず初回授業には出席してください。

なお感染状況により変更が生じた場合は、学習支援システム等により周知します。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents. It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian. It is also linked with lesson of information resource organization theory.

情報資源組織演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実践についてのスキルを学ぶ。

授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習（資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習（資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述（Unit7・8）	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）	記述及び所蔵事項（予備）
9	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
10	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
11	コンピュータ目録（Unit17・18）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	MARC フォーマット（Unit19・20）	
13	NACSIS-CAT（Unit21）	
14	件名法（Unit47-49）	基本件名標目表の概略、語の関係性、細目
15	件名規定と演習（Unit50）	件名標目付与の演習を中心に行う。
16	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
17	主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か
18	NDC の構成、形式区分	
19	日本十進法による分類作業（Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
20	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
21	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教（1 類）
22	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
23	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
24	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
25	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術（4・5 類）
26	技術・産業（Unit41）	技術・産業（5・6 類）
27	人文科学④ 芸術（Unit42）	芸術（7 類）
28	言語・文学（Unit43）	言語・文学（8・9 類）

26	文学・総記 (Unit43・44)	文学・総記 (9・0 類)
27	図書記号・別置記号の付与 (Unit45・46)・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト (教科書)】

『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】

木原 通夫 [ほか] 著 『情報資源組織法—資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会 編 『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】

通年授業のため、春学期は 50 %、秋学期は 50 %とする。50 %の内、出席・毎回の小クイズ・春・秋学期それぞれ (25 %)、春・秋学期筆記試験それぞれ (25 %) によって総合的に評価する。

出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生は司書資格課程のポータルサイト (Hulic) から、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】

Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

情報資源組織演習

竹之内 禎

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では、『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH)、『日本目録規則』(NCR) という 3 つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】

- 1) 『日本十進分類法』(NDC) を使用して、基本的な分類記号を与えることができる
- 2) 『基本件名標目表』(BSH) を使用して、基本的な件名標目を与えることができる
- 3) 『日本目録規則』(NCR) の概要を理解して、図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

前期は『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH) という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』(NCR) に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントシート (リアクションペーパー) の内容からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の全体像 『日本十進分類法』 (NDC) による分類法の基礎	第 1 分冊：本表・補助表編 第 2 分冊：相関索引・使用法編
第 2 回	『日本十進分類法』 (NDC) の構成、NDC 相関索引の使用法	相関索引と分類記号の対応、指定した テーマの資料紹介と分類の確認
第 3 回	本表の省略記号、NDC1 類 (哲学・心理学・宗教) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 4 回	地理区分 (1)、NDC3 類 (社会科学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 5 回	地理区分 (2)、NDC4 類 (自然科学・医学・薬 学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 6 回	形式区分、NDC5 類 (技 術・工学・生活科学) の 分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 7 回	海洋区分、NDC2 類 (歴 史・伝記・地理) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 8 回	地理区分 (3)、NDC6 類 (農林水産業・商業・ 交通・観光・通信) の分 類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 9 回	言語区分、NDC7 類 (芸 術・スポーツ) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 10 回	分類規程、NDC8 類 (言 語) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 11 回	図書記号、NDC9 類 (文 学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 12 回	NDC0 類 (知識・情報・ 図書館・出版・博物館・ ジャーナリズム) の分類 法	指定したテーマの資料紹介と分類の確 認
第 13 回	『基本件名標目表』 (BSH) の構成	BSH による件名付与の方法、指定し たテーマの資料紹介と分類の確認
第 14 回	『基本件名標目表』 (BSH) の使用法	BSH による件名付与の方法、指定し たテーマの資料紹介と分類の確認

第 15 回	『日本目録規則』(NCR) による目録作成の基礎、『基本件名標目表』(BSH) による件名付与の復習、『日本十進分類法』(NDC) による分類記号付与の復習	NDC と BSH の復習
第 16 回	タイトルと責任表示の記述	目録記入の基本型
第 17 回	版表示、出版地、出版者、出版年の記述、NDC1 類(哲学・心理学・宗教) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 18 回	形態に関する事項の記述、NDC2 類(歴史・伝記・地理) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 19 回	さまざまなケースの記述、NDC3 類前半(社会科学・政治・法律・経済・財政) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 20 回	NDC3 類後半(統計・社会・教育・民俗・軍事) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 21 回	NDC4 類(自然科学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 22 回	NDC5 類(500～589 技術・工学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 23 回	NDC5 類(590～家政学・生活科学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 24 回	NDC6 類(農林水産業・商業・交通・観光・通信) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 25 回	NDC7 類(芸術・スポーツ) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 26 回	NDC8 類(言語) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 27 回	NDC9 類(文学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 28 回	NDC0 類(知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。

前回の授業で出された宿題(指定されたテーマの図書を探して書誌情報、著者・出版者情報、分類記号等を調べておくこと/目録記入を作成すること)【復習】各回の授業内容を見直し要点をまとめておくこと。

【テキスト(教科書)】

山本順一監修、竹之内禎ほか編著、『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2016

本体 3,500 円+税

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b239765.html>

【参考書】

竹之内禎ほか編著、『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020

本体価格 2800 円+税

https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】

評価の方法:

毎回の授業への参加と提出課題(70%), 学期末レポート課題(30%)

評価の基準:

授業への 2/3 以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。

- 1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
- 2) 分類法、件名法のスキルを習得したか
- 3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変更になります。

【その他の重要事項】

「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the method of information resource organization, that is, how to classify books, give subject headings and make bibliographic data for library catalog.

情報資源組織演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】

- (1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の知識とスキルを身につける。
- (2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し、実際にデータベースを構築する。
- (3) XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。
- ・秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックを行う。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法(NDC)の構造
第 3 回	分類作業の実際(1)	日本十進分類法を用いた演習(主題分析)
第 4 回	分類作業の実際(2)	日本十進分類法を用いた演習(補助表)
第 5 回	分類作業の実際(3)	日本十進分類法を用いた演習(0・1類)
第 6 回	分類作業の実際(4)	日本十進分類法を用いた演習(2・3類)
第 7 回	分類作業の実際(5)	日本十進分類法を用いた演習(4・5類)
第 8 回	分類作業の実際(6)	日本十進分類法を用いた演習(6・7類)
第 9 回	分類作業の実際(7)	日本十進分類法を用いた演習(8・9類)
第 10 回	件名作業の実際(1)	基本件名標目表(BSH)の概要
第 11 回	件名作業の実際(2)	基本件名標目表(BSH)を用いた演習
第 12 回	目録作成の実際(1)	書誌コントロールと図書館目録
第 13 回	目録作成の実際(2)	日本目録規則(NCR)の構成演習
第 14 回	春学期振り返り	春学期に学んだことを振り返る
第 15 回	課題発表会	夏季課題についての発表会
第 16 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録
第 17 回	NACSIS-CAT	NACSIS-CAT、NIIの教育研究・事業データベースの仕組み。リレーショナルデータベース
第 18 回	データベース(1)	SQL入門
第 19 回	データベース(2)	SQL入門
第 20 回	メタデータ(1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ(2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ(3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習(1)	OPACの概要
第 24 回	図書館システム演習(2)	書誌データベースの構築(Enju)
第 25 回	図書館システム演習(3)	書誌データベースの構築(DC-NDL(RDF)を利用)
第 26 回	図書館システム演習(4)	書誌データベースの構築(目録作成)
第 27 回	図書館システム演習(5)	書誌データベースの構築(件名作業・分類作業)
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で行った演習内容を復習すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業内演習への参加（50%）

小課題（数回出す予定です）および夏季課題の発表（30%）

期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」（<http://lc.i.hosei.ac.jp/>）も使います。

【その他の重要事項】

演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn about

(1)NDC: Nippon Decimal Classification

(2)BSH: Basic Subject Headings

(3)NCR: Nippon Cataloging Rules

(4)Metadata and WebAPI

学校図書館メディアの構成

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館のメディアの種類と、その組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場に必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかを考える。学校図書館の蔵書を作り上げ、管理するために、資料・情報の選択と収集に必要な力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。分類、配架、目録の整備などメディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。受講生からの質問、意見は次回授業で公開し、討論、コメントするなどして理解を深めていきます。また授業時間以外でもメールで対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館の機能とサービス
第 2 回	学校図書館メディアの種類（1）	活字、印刷メディア（1）
第 3 回	学校図書館メディアの種類（2）	活字、印刷メディア（2）
第 4 回	学校図書館メディアの種類（3）	視聴覚メディア
第 5 回	学校図書館メディアの種類（4）	校内資料、地域資料、ファイル資料
第 6 回	学校図書館メディアの授業での活用	メディアを活用した授業事例を考える
第 7 回	学校図書館メディア、組織化の流れ	学校図書館のテクニカルサービス
第 8 回	分類（1）	分類の意義、種類 分類演習（1）
第 9 回	分類（2）	NDC のしくみと応用 分類演習（2）
第 10 回	目録（1）	目録の意義、種類、NCR 目録演習（1）
第 11 回	目録（2）	目録記述と書誌的事項 目録演習（2）
第 12 回	図書館見学	実際の図書館での分類や目録の調査
第 13 回	学校図書館メディアの選択（1）	選択・購入から配架まで
第 14 回	学校図書館メディアの選択（2）	予算、組織、保存、廃棄 最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学校図書館、図書館、書店に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井尊士 放送大学教育振興会 2016

『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

平常点、演習課題、最終課題による

平常点（授業時の小課題、授業への積極的な貢献度）：40 %

演習課題①分類②目録：30 %

提出レポート「図書館のレイアウト計画」とまとめのレポート：30 %

【学生の意見等からの気づき】

実践的な練習の機会を作るよう心がける

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

学校経営と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに学習支援システムを通じて講師からのフィードバックを受け取る
以上のやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第 2 回	学校図書館の意義	事前に教科書の第 1 章～第 4 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	学校の中の図書館	事前に教科書の第 5 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	学校図書館の歴史	事前に教科書の第 6 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	学校図書館の歴史と制度	事前に教科書の第 7 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の第 9 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	学校図書館のサービス	事前に教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	学校図書館における教育活動	事前に教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	学校図書館の担当者	事前に教科書の第 12 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の第 13 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 12 回	学校図書館の設計／まとめ／最終レポート提示	事前に教科書の第 14 ～ 15 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。最終レポートを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。

レポート 77 % (各レポート 7 % づつ)、最終レポート 23 % の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

学習指導と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えているかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。翌週までに学習支援システムを通じて講師からのフィードバックを受け取る。以上のやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方 / 学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	事前に教科書の第 1 章～第 2 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	探究的な学習の理論	事前に教科書の第 3 章～第 4 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	情報リテラシー教育	事前に教科書の第 5 章～第 6 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	課題の設定	事前に教科書の第 7 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	情報探索から表現まで	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	レファレンスサービス	事前に教科書の第 9 章～第 10 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	小学校における学校図書館の活用	事前に教科書の第 11 章～第 12 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	中学校・高等学校における図書館の活用	事前に教科書の第 13 章～第 14 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 11 回	発表「こんな授業がやりたい！」2	授業案の発表および討議
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」3	授業案の発表および討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・3）』樹村房、2016

【参考書】

塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房、2016

塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房、2019

全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」<http://www.jsla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikeihyou.pdf>

日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会、2011

堀川照代、塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2016

【成績評価の方法と基準】

発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度 40 %・発表 20 %・レポート 40 %の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権

14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

提出課題 30%

期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際にも具体的な事例をもとに紹介していきます。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。

担当者のサイト

ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

・プレゼン能力

・現状調査能力

・企画立案力

・イベントプロモーションの在り方

・広報宣伝/集客テクニック

などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定です。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。

秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権

14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌
	・学校教育との連携	
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

提出課題 30%

期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際にも具体的な事例をもとに紹介していきます。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。

担当者のサイト

ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育活動 I

桔川 純子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたって、適切な対応をしなければならぬマイノリティの問題、特に外国籍、外国にルーツをもつ人、また女性たちの問題に焦点を当て、「自分」に引きつけて考えていきます。そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティー」の問題について、グローバルな視点から分析できるようにします。そして、現在の全世界の状況に目を向けながら、「ポストコロナ、ウイズコロナの世界」を一緒に考えてみましょう。初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】

1. 本講義のテーマ、エスニシティ、ジェンダーとは何かについて理解できるようにします。
2. 国際社会における日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初回の授業は（火）になり、オンラインでの開講となります。詳細については、学習支援システムで提示しますので、必ず確認して下さい。その後の予定については、初回の授業時に、また学習支援システムで説明しますので、定期的に確認するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「コロナの時代」において何を考えるのか	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。 女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	住んでいる地域について把握する	自分が住んでいる地域の特徴、市民活動の状況について調べてみる
5	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
6	<人権>と社会教育	憲法で保障されている<人権>、関連する法律などを確認し、日常のなかの<人権意識>について考察する。
7	<ことば>のもつ意味と識字教育	差別を助長する<ことば>、配慮のある<ことば>について考える。
8	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す<制度>とは
9	地域における実践の考察①	日本の<地域>について調べてみる。
10	地域における実践の考察②	日本の<地域>について調べてみる。
11	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
12	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
13	省略	省略
14	まとめ：意見交換	「ポストコロナ、ウイズコロナの社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくっていくためにはどうすればいいのかについてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】

■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）
 ■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のためのQ&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のためのQ&A』、『改定入管特例法 特別永住者のためのQ&A』（2011）
 ■ソーシャルデザイン会議実行委員会（著、編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言、毎回のリアクションペーパー等 40%、発表 20%、期末レポート 40%とします。
 ただ、オンライン授業に変更になった場合など、基準を変更する場合がありますので、

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn about minority issues through various social education activities.

Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity", "gender", "ethnicity" and so on.

社会教育活動Ⅱ

佛木 完

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、活動内容とその時代状況を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学び、人間関係を築き、社会に参画するなかで、主体的な生き方を形成する事例を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。

あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの容容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジュメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや授業内で行った小レポート等において、学生全体の理解を更に深めるための題材となるものは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映像に見る青年団	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究会集を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまに繰り返される青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのように関わっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。

第9回	青年団の平和運動（その1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。
第10回	青年団の平和運動（その2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶもの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第11回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第12回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、DV、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第13回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第14回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジュメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

2020年度はコロナ禍のなかで、対面授業が数回しかできず、大変残念でした。今年は全面的に対面授業ができることを願っています。

若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていながら、若者は自分自身をも形成していくのです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.

As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

社会教育実習

朝岡 幸彦

単位：2単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う場合や半日程度の実習を数カ月にわたり行う場合など、多様な実施形態が考えられ、実習先についても公民館や青少年施設のほか、地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務遂行に求められる実践的な能力の養成に効果的な取組を行う。社会教育施設等において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事等の役割をとその意義を理解する。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表（実習報告）のもとに行う。

【到達目標】

地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務に求められる実践ができる。実習日誌に記載されている実習先からの評価において、①社会教育主事等の専門資格を取得する上で必要な実務経験を体験できていること、②実習先の規則やマナー、指導担当者の指示を守っていること、③市民の学習支援のあり方について理解できていること、等ができることと評価されることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う。実習日誌をもとに、それぞれの実習の成果と課題を最後の授業で振り返る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	過去の実習報告を読む
実習	社会教育施設実習 1	社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行うためのガイダンス等
実習	社会教育施設実習 2	講座 A 等の見学
実習	社会教育施設実習 3	講座 A 等の支援
実習	社会教育施設実習 4	実習のまとめ①
実習	社会教育施設実習 5	講座 B 等の見学
実習	社会教育施設実習 6	講座 B 等の支援
実習	社会教育施設実習 7	実習のまとめ②
実習	社会教育施設実習 8	講座 C 等の見学
実習	社会教育施設実習 9	講座 C 等の支援
実習	社会教育施設実習 10	実習のまとめ③
実習	社会教育施設実習 11	事業 A の説明
実習	社会教育施設実習 12	事業 A の支援
実習	社会教育施設実習 13	実習のまとめ④
実習	社会教育施設実習 14	事業 B の説明
実習	社会教育施設実習 15	事業 B の支援
実習	社会教育施設実習 16	実習のまとめ⑤
実習	社会教育施設実習 17	事業 C の説明
実習	社会教育施設実習 18	事業 C の支援
実習	社会教育施設実習 19	実習のまとめ⑥
実習	社会教育施設実習 20	実務の説明
実習	社会教育施設実習 21	実務の支援
実習	社会教育施設実習 22	実習のまとめ⑦
実習	社会教育施設実習 23	実習の振り返り①
実習	社会教育施設実習 24	実習の振り返り②
実習	社会教育施設実習 25	実習の振り返り③
実習	社会教育施設実習 26	実習のまとめ⑧
講義	ふりかえり	実習報告の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018年

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習報告書（選択実習及）の提出と内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートの結果を踏まえて改善する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにおける情報の更新を随時確認して対応すること。

【Outline and objectives】

This course will focus on activities that cultivate practical abilities required to accomplish tasks as social education supervisor. Activities can be practiced in various ways, which will be taken place such as community center and youth education facilities and will be proceeded regarding to circumstances of local community and social education institution.

In the preparation class, participants will understand the role and meaning of social education supervisors. In the follow-up class, participants will review and evaluate their work by making presentation for the class.

博物館資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得する。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得する。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得する。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第9回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。

第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
- ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
- ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点50%程度、各回コメント20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のリアクションペーパーにおけるフィードバックから、講義内容について、詳細であったとの高評を得たため、この点は水準の維持に努める。一方で、難解であったとの反応については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

清水 玲子

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・ppt による資料を提示しながら、実施する。
- ・その場での質問や意見を歓迎するが、できない場合は、リアクションペーパーに記載する。
- ・リアクションペーパーにおける質問は、内容に応じて、授業時、或いは、質問者に直接フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料とは何か・資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、その他について
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
講義	保存の諸条件 3	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理 (IPM : Integrated Pest Management) について
講義	収蔵と展示 1	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	収蔵と展示 2	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について、資料の取扱いを中心に見ていく
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表。
講義	エコミュージアムとコミュニティ	ワークショップの講評及び地域資源の保全の事例を見ていく。
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
- ・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識1）』神戸大学出版会、2018年1月
 吉田正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018年8月
 *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
 小課題 50 % 期末課題 50 % にて評価する。
 *詳細は、第1回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

職業指導（仕事の場と学び）

高橋 浩

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】

職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。

職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面事業で実施する。

職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。そのため本授業では、一方的な講義に終始するのではなく、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を習得していく。毎回、リアクションペーパーを提出してもらいが、次回の授業冒頭にてコメントや補足などのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホルランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバークの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理-社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバークやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサピカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホルの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。

14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	3つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致/自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各理論・技法については、授業前にテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめておき、授業当日のディスカッションに備えておくこと。
習得した支援技法については、それを日常生活の中で自他に応用するように努めること。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）
『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）
『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）
『小学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論とその方法の理解について：春学期末のレポート課題（50%）、授業への参加姿勢（50%）
・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（50%）、授業への参加姿勢（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】

In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間の作り方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%、レポート 30%、試験 40% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティック性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館	博物館のメディアとしての役割について学ぶ。
第3回	ICT 社会における博物館	ICT 化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第4回	資料のデータベースの整備と公開	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第5回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報発信	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第8回	スマートフォンの活用	博物館で行われているスマートフォンの活用について学ぶ。
第9回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第10回	博物館活動と著作権②	実際の博物館活動の中で遭遇する著作権に関する事柄を学ぶ。
第11回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き①	デジタル技術を用いた資料の復元やクラウドファンディングなど、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第12回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き②	実体を持たないデジタル博物館など、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第13回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を通して、情報やメディアを扱う学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）

大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
 金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 56 %、レポート 44 %。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

博物館情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたくと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化<調査研究活動>	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化<展示活動>	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化<教育普及活動・学習活動>	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。

- 第14回 博物館における情報・メディア戦略（まとめ） 博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知らないといふと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

- 『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012年）
 『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013年）
 『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018年）
 『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013年）
 『展示論—博物館の展示をつくる—』（日本展示学会編、雄山閣、2010年）
 『博物館展示論（K S 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014年）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40点）」「レポート課題 60 %（60点）」の配分（合計 100点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、講義内容への理解が深まるようにします。本講義では、数多くの情報を紹介しますので、講義後に受講生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）のURLは学習支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年間の実務経験を有しています。そのうち20年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future.

博物館実習 I

田中 裕二

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的としている。学芸員の職務は多岐にわたるが、中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

昨年度はオンラインと対面のハイブリッド授業であったが、今年度は対面を予定している。お知らせや課題、リアクションペーパーは、原則学習支援システムを通じて行う。常に Hoppii を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（民具）の整理・実測（1）
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（民具）の整理・実測（2）
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録（4）
第13回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類の調査・観察・記録（5）
第14回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第16回	コレクション調査（調査報告）Ⅰ	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査（調査報告）Ⅱ	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査（調査報告）Ⅲ	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査（調査報告）Ⅳ	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第23回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第24回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・巻子・画帳）の取り扱いと展示作業
第25回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・巻子・画帖）の取り扱いと展示作業
第26回	パネルの作成Ⅰ	解説文を書き、パネルを作成する。
第27回	パネルの作成Ⅱ	作成したパネルを展示する。
第28回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題の提出（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示、学習支援システムなどを随時確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

博物館実習 I

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	石器の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	石器の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	石器の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	石器の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	石器の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査（調査報告）	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査（調査報告）	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（資料化実習）	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（資料化実習）	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動することが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々々の流行を捉え、博物館現場の実際をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出ししていきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し企画展実施計画への到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介しします。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移と日本と海外の企画展の違いについて	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介しします。
第 3 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方を考える。
第 4 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第 5 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 6 回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第 7 回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第 8 回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 10 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 11 回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 12 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第 13 回	企画展発表Ⅰ①	各回 10 名程度に分け、パワポ 5 枚程度を作成し発表する。

第 14 回	企画展発表 I ②	パワポ 5 枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第 15 回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第 16 回	企画展を構想する②	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第 17 回	企画展発表事前相談	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第 18 回	企画展発表 II - ①	各回 7 名程度に分け、パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 19 回	企画展発表 II - ②	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 20 回	企画展発表 II - ③	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 21 回	グループ企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 22 回	グループ企画展実施② グループ企画展から発表	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 23 回	グループ企画展実施③ グループ企画展実施④ 展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 24 回	グループ企画展実施④ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 25 回	グループ企画展実施⑤ ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	グループ企画展実施⑥ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが 15 分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について (まとめ)	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ(種)を探してください。

【テキスト (教科書)】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

博物館実習 II

杉山 享司

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

展示会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展示会の企画からフライヤー (展示会チラシ) の制作までを通して、学芸員の仕事の実態について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展示会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展示会を立案して展示会の企画書にまとめ、最終的にそれをフライヤー (展示会チラシ) として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展示会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して「資料配信型」の授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布した資料を読み、また場合によっては参考動画を視聴し、各自の考えを課題 (レポート) にまとめてもらいます。なお、その際に受講生の皆さんからの質問等に答えたり、レポートへのフィードバックを行いたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	博物館と学芸員	博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
3	日本における博物館の歩み	展示会の歴史を紐解きながら、日本において博物館がどのように発展していったのかを解説する
4	公立博物館の活動紹介	東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
5	私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
6	博物館資料の収集と活用について	日本民藝館が所蔵するアイヌ資料を紹介し、併せて博物館における収集 (蒐集) について考える
7	博物館資料の保存と調査研究について	日本民藝館で実施された韓国文化財の共同調査を通して、文化財返還問題について考える
8	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
9	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
10	展示会実施までのプロセス①	展示会 (企画展) の立案から企画書の作成までの過程を解説する
11	展示会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展示会実施までの過程を解説する
12	展示会企画書の作成に向けて	展示会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説する
13	展示会企画書の作成	企画展示の企画書を実際に作成してみる
14	13 回目に統合	同上
15	受講生による 1 回目の企画展の企画書の発表	受講生による 1 回目の「展示会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展示会の内容やその構成について解説する
16	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の企画書の発表	受講生による 2 回目の「展示会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展示会タイトルの付け方について解説する
17	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展示会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、会場の設定について解説する

18	前回発表の振り返りと、受講生による4回目の発表	受講生による4回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展覧会の料金設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による5回目の発表	受講生による5回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定について解説する
20	前回発表の振り返りと、受講生による6回目の発表	受講生による6回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、記念催事について解説する
21	「展覧会企画書」の発表の総括	受講生各自の発表を基にして問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る。併せてプレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会の実見	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
23	企画書を基にしたフライヤー（展覧会チラシ）の作成に向けて	フライヤー（展覧会チラシ）の作成方法や注意点について解説する
24	受講生によるフライヤーを用いた1回目の発表	企画書を基にして作成したフライヤーの1回目の発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による2回目の発表	展示内容に意識しながら2回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による3回目の発表	フライヤーのデザイン面に留意しながら3回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による4回目の発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら4回目の発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による5回目の発表	企画者としてのメッセージに留意しながら5回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価40%、秋学期の課題「フライヤー（展覧会チラシ）の制作と発表」の評価60%

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities. In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山 喜昭

単位：2単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】

博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。

実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び(2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する（全員が対象）。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。

最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前④	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習前⑤	事前指導	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。
実習中	館園実習（10日間）	学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

実習先での評価 (50%)。
ガイダンスを含めた平常点 (20%)
課題提出物 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

その他の重要事項

- *第 1 回ガイダンス【受講準備】(前年度 12 月)
- *個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
- *第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】(4 月)
- *第 3 回ガイダンス【事前指導】(7 月)
- *実地実習
- *実習先への礼状の送付
- *第 4 回ガイダンス【報告準備】(10 月)
- *事後指導・実習報告会および情報交換会(12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定)形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】

学内実習の実務実習は、春学期(6 月)及び秋学期(10 月～11 月)にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

ミュージアム資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

博物館における基本的な機能の 1 つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得する。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得する。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得する。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM(総合的有害生物管理)について解説する。
第 10 回	災害と保全対策	災害の種類(火災、地震、水害、盗難等)と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。

第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
- ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
- ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点50%程度、各回コメント20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のリアクションペーパーにおけるフィードバックから、講義内容について、詳細であったとの高評を得たため、この点は水準の維持に努める。一方で、難解であったとの反応については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

ミュージアム資料保存論

清水 玲子

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・pptによる資料を提示しながら、実施する。
- ・その場での質問や意見を歓迎するが、できない場合は、リアクションペーパーに記載する。
- ・リアクションペーパーにおける質問は、内容に応じて、授業時、或いは、質問者に直接フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料とは何か・資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、その他について
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
講義	保存の諸条件 3	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	収蔵と展示 1	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	収蔵と展示 2	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について、資料の取扱いを中心に見ていく
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表。
講義	エコミュージアムとコミュニティ	ワークショップの講評及び地域資源の保全の事例を見ていく。
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
- ・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会(地域づくりの基礎知識1)』神戸大学出版会、2018年1月
 吉田正人『世界遺産を問直す』山と溪谷社、2018年8月
 *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
 小課題 50% 期末課題 50% にて評価する。
 *詳細は、第1回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 ・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%、レポート 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティック性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」 同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館	博物館のメディアとしての役割について学ぶ。
第3回	ICT 社会における博物館	ICT 化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第4回	資料のデータベースの整備と公開	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第5回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報発信	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第8回	スマートフォンの活用	博物館で行われているスマートフォンの活用について学ぶ。
第9回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第10回	博物館活動と著作権②	実際の博物館活動の中で遭遇する著作権に関する事柄を学ぶ。
第11回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き①	デジタル技術を用いた資料の復元やクラウドファンディングなど、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第12回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き②	実体を持たないデジタル博物館など、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第13回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を通して、情報やメディアを扱う学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
K. マックリー著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）

大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
 金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 56 %、レポート 44 %。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

ミュージアム情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化<調査研究活動>	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化<展示活動>	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化<教育普及活動・学習活動>	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。

- 第 14 回 博物館における情報・メディア戦略（まとめ） 博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知らないといふと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012 年）

『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013 年）

『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018 年）

『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013 年）

『展示論—博物館の展示をつくる—』（日本展示学会編、雄山閣、2010 年）

『博物館展示論（KS 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、講義内容への理解が深まるようにします。本講義では、数多くの情報を紹介しますので、講義後に受講生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）の URL は学習支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future.